

国際学院埼玉短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 国際学院
理事長 大野 誠
学 長 大野 誠
A L O 今井 重之
開設年月日 昭和 58 年 4 月 1 日
所在地 埼玉県さいたま市大宮区吉敷町 2 - 5

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
健康栄養		150
幼児保育		200
	合 計	350

専攻科および入学定員

専攻	入学定員
健康栄養	20
幼児保育	20
	合 計 40

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

国際学院埼玉短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

国際学院埼玉短期大学の設置母体である学校法人国際学院は、今年で 42 年目を迎え、現在、短期大学の他、高等学校、専門学校を有する学校法人である。当該短期大学は、昭和 58 年に開設され、2 学科 2 専攻科を擁している。

建学の精神として「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を掲げており、それに基づき「礼をつくし、場を清め、時を守り、静粛にして、明朗なれ」を教育理念としている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は確立しており、その理念を具現するため、各種行事等における全学的な取り組み、実践は評価でき、高い教育効果をあげている。

教育の内容、教育課程については、建学の精神、教育理念が十分に反映された体系的なものに編成されている。資格取得を目的とする学科・専攻では、科目選択の自由度には制約があるものの、教養教育や卒業研究等に工夫がこらされている。また、資格・免許の取得率は高く、学生のニーズに添えており、そのために設けられている授業科目、形態も適切である。教育方法の改善に関しては、年 2 回の学生による授業評価や組織的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動が行われており、授業改善への全学的な意欲が高い。

学生支援に関しては、学習支援が全学的にきめ細かく整備、実施されており、また、生活支援についての組織や設備が整っている。就職指導や環境が充実し、その結果高い就職率を得ており、しかも資格を生かした就職の割合が高い。

各教員の研究活動の状況が研究紀要やウェブサイトで公開される等、教員の研究活動は展開されている。領域にそった教員用の研究室が準備されており、研究活動の条件整備は概ね整っている。平成 16 年度に特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)に採択されてお

り、その際に教育機器や備品の一層の充実がなされている。

社会的活動としては、昭和 59 年より毎年公開講座を実施する等、地域ならびに行政機関、民間企業、教育機関、文化団体との交流が活発である。学生のボランティア活動を積極的に支援し、要件を満たした場合は単位認定を行っている。2 年次に全員参加の海外研修プログラムが実施されており、国際交流・協力体制も整っている。

理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づいて定例的に開催され、理事長のリーダーシップが学校法人運営全般にわたり発揮されている。監事は、寄附行為に基づいて適切に業務を行っている。教授会は学則等の規程に基づいて、定例的に開催され、運営全般に学長のリーダーシップが発揮されている。教員・事務職員が連携し、全教職員が諸活動において役割を分担している。

学校法人及び短期大学は、事業計画と予算を適正に執行しており、決算についても、所定の計算書類が整備され、監事及び公認会計士の機能が有効に働いている。私立学校法の改正に伴い、財務情報が公開されている。財務状況は、入学定員を確保している現状が継続すれば健全に推移すると判断される。必要な施設設備も概ね整備されており、規程の整備、定期的な点検等によって適切に管理されている。

自己点検・評価の実施体制としては、自己点検・評価活動に多くの教職員を関与させ、組織的に取り組み、精力的に行われている。

3 . 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 建学の精神及び教育方針は、学長の著書等の活用を通して教職員・学生の諸活動に生かされている。

評価領域 教育の内容

- ・ 卒業研究の必修化とその全員による発表会等、高等教育研究改革推進経費の予算計上やテュートリアル授業の公開等、教育方法の改善・向上に取り組んでいる。
- ・ 海外研修を必修としており、国際的理解の涵養に努めている。
- ・ 教育目標の達成のため全教員が共通の認識と理解をすることに、大きな精力を注いでいる。そうした基盤づくりのために、いち早く FD 活動、さらにはスタッフ・ディベロップメント(SD)活動を実施している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 専門職への就職率は、幼児保育学科、健康栄養学科ともにきわめて高く、数多くの学生

が専門職として就職している。しかも就職後も、さまざまな機会を設けて多くの卒業生と接触することに努めている。そうした地道な努力が、卒業生の信頼を得るのはもちろん、社会的評価の向上へとつながっている。

評価領域 研究

- ・ 教員の研究発表をする機会として「人づくりを科学する」をメインテーマとしたシンポジウムを毎年開催して、研鑽に努めている。

評価領域 社会的活動

- ・ 大学祭である「五峯祭」に多数の地域住民の参加があり、地域の活性化に寄与している。

評価領域 改革・改善

- ・ 「自己点検・評価なくして大学の維持・発展はありえない」とする姿勢は、平成 12 年度以来、毎年自己点検・評価報告書を発行、問題を発見し、解決・改善するシステムを構築して、実践・努力していることから窺える。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

- ・ 学生による授業評価の結果の考察や、それが授業の改善にどのように活かされたかの検討が望まれる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 図書館の改善・充実が望まれる。

評価領域 研究

- ・ 各教員の研究テーマ、所属学会、主要な研究業績等について公表されることが望まれる。研究成果の発表は「研究紀要」になされてはいるが、各領域での専門学会誌への投稿等を推進されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし